

月刊 千葉労働

動労千葉結成10周年!

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

89.8.23 No.3074

清算事業団地労委、最終陳述書を提出 -8/21- 12名の原職奪還へ 320名が結集する



怒りもあらたに決意表明する清算事業団支社

清算事業団闘争は、今まさしく決戦に突入した。わが動労千葉は千葉地労委最終陳述書を提出した。八月二一日、十八時よりよし川公園において総決起集会を開催した。

出発する。千葉支社こそ、十二名の仲間を「解雇」した張本人だ。門前で怒りが爆発する。「JRはただちに採用しろ」「ストライキで闘うぞ」シュプレヒコールが、支社、千葉駅にとどろきわたる。「期限切れ」まであと半年、全組合員が火の玉となって突き進むならば、必ずや勝利できる。十二名の不屈の闘い、怒り、苦しみ、決意、その一切合切をわがものとし、総決起しよう。いざ、ストライキへ!

注消算車事業団闘争勝利!

八・二一 総決起集会云決議議 (安末)

清算事業団の仲間たちの解雇撤回!原職奪還!のたたかいをめぐる攻防は、いよいよ本格的決戦段階へと突入した。

JR当局は、動労千葉の十二名の仲間たちをはじめ、全国三千名の清算事業団労働者を来年四月一日の「再就職促進法」の期限切れをもって、清算事業団からも追放しようとしている。

われわれは、三年前、国鉄分割・民営化という名の十万人首切りと国鉄労働運動圧殺の未曾有の攻撃に抗し、断固としてストライキに決起した。

この労働者としての当然のたたかひに対し、政府・国鉄当局は、二八名の解雇をはじめとする前代未聞の大量不当処分を強行し、さらに、それにもあき足らず、十二名の仲間たちを清算事業団へと追いやったのだ。また、全国で清算事業団に送られた七千名の労働者のほとんどが国労の組合員であった。この事実こそ、国鉄分割・民営化の本質が何であったのかをあますところなく鮮明に物語っているのである。

われわれは、ありとあらゆる不当労働行為の限りを尽くした国鉄労働運動圧殺攻撃をね返し、たたかひの路線と団結を守りぬいて堂々とたたかひぬき勝利した。しかし、たたかひはいまだなかばである。二八名の被解雇者を奪還し、十二名の清算事業団の仲間を奪い返してこそ、はじめて勝利の二文字を高々と掲げることができるのである。

現在、清算事業団の仲間たちの存在とたたかひは、鉄道労連革マルと結託し、異常な労務支配を続けるJR当局と「分割・民営化体制」を鋭く告発し、追いこんでいる。一片の通知すらなく、職場を奪われて以来二年余り、清算事業団の仲間たちは、何ひとつ仕事すら与えられず、屈辱的な日々を強制され続けている。JR当局は、鉄道労連革マルと一体となつて、全国各地の地労委で出されている「救済命令」にすら居直り、踏みにつけているのだ。

われわれの、怒りはもはや限界である。

千葉地労委でのたたかひも、六月二八日審理が結審し、本日最終陳述書を提出するに至った。しかし、たたかひはこれから本番である。「来年四月一日」まで残るすべての時間を全力をあげて総決起しなくてはならない。われわれは、全国で苦闘する清算事業団の労働者と家族、全国のたたかう仲間と連帯し、本日を突破口に、あくまで解雇撤回!原職奪還をかちとるために、ストライキも辞さず、たたかひぬく決意である。

右、決議する。

一九八九年八月二一日

清算事業団闘争勝利!総決起集会参加者一同